

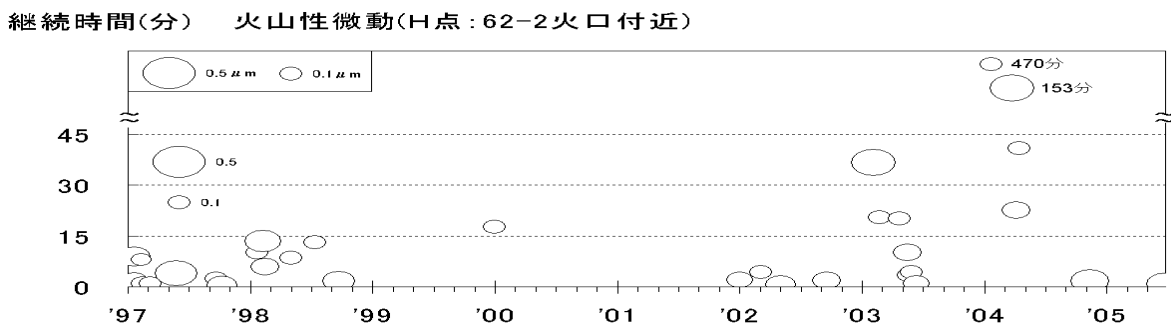
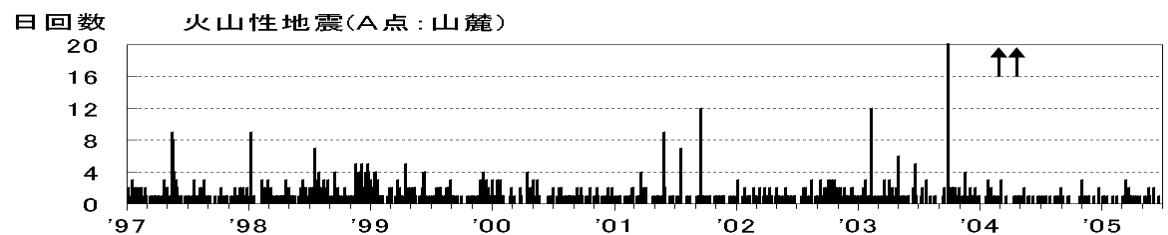
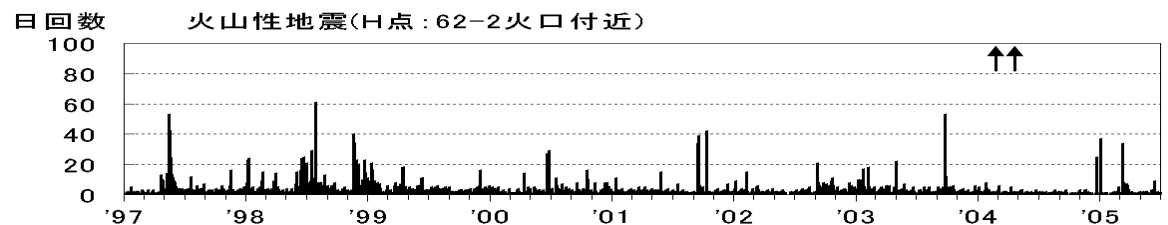
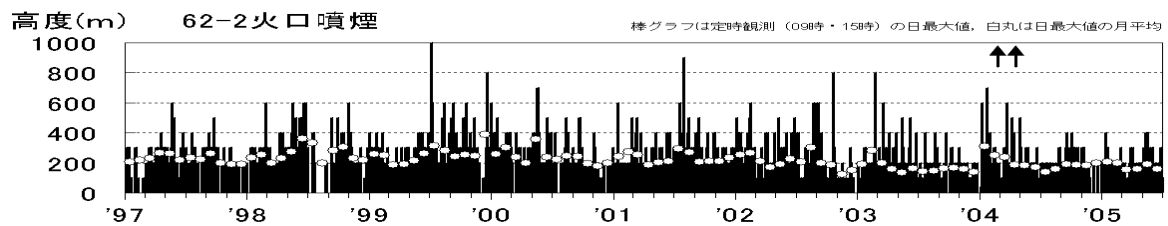
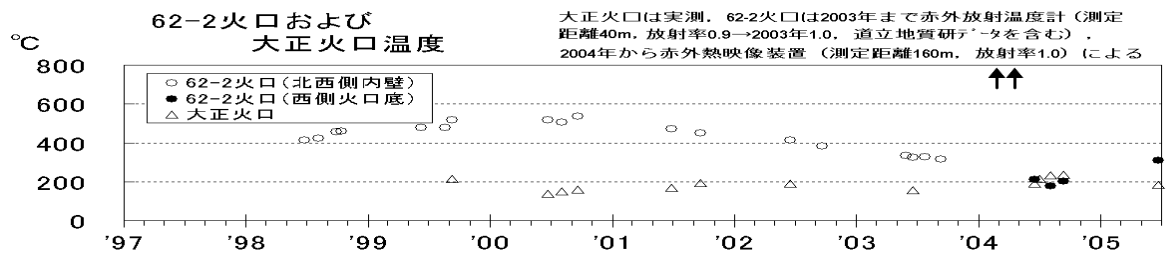
十勝岳

1 概況

62-2 火口は噴煙活動が活発で高温の状態が続いています。28日には振幅の小さな火山性微動が観測されました。十勝岳の火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

2 噴煙の状況

62-2 火口では活発な噴煙活動が続いています。噴煙は白色で高さは火口縁上おおむね 200 mで経過しました。



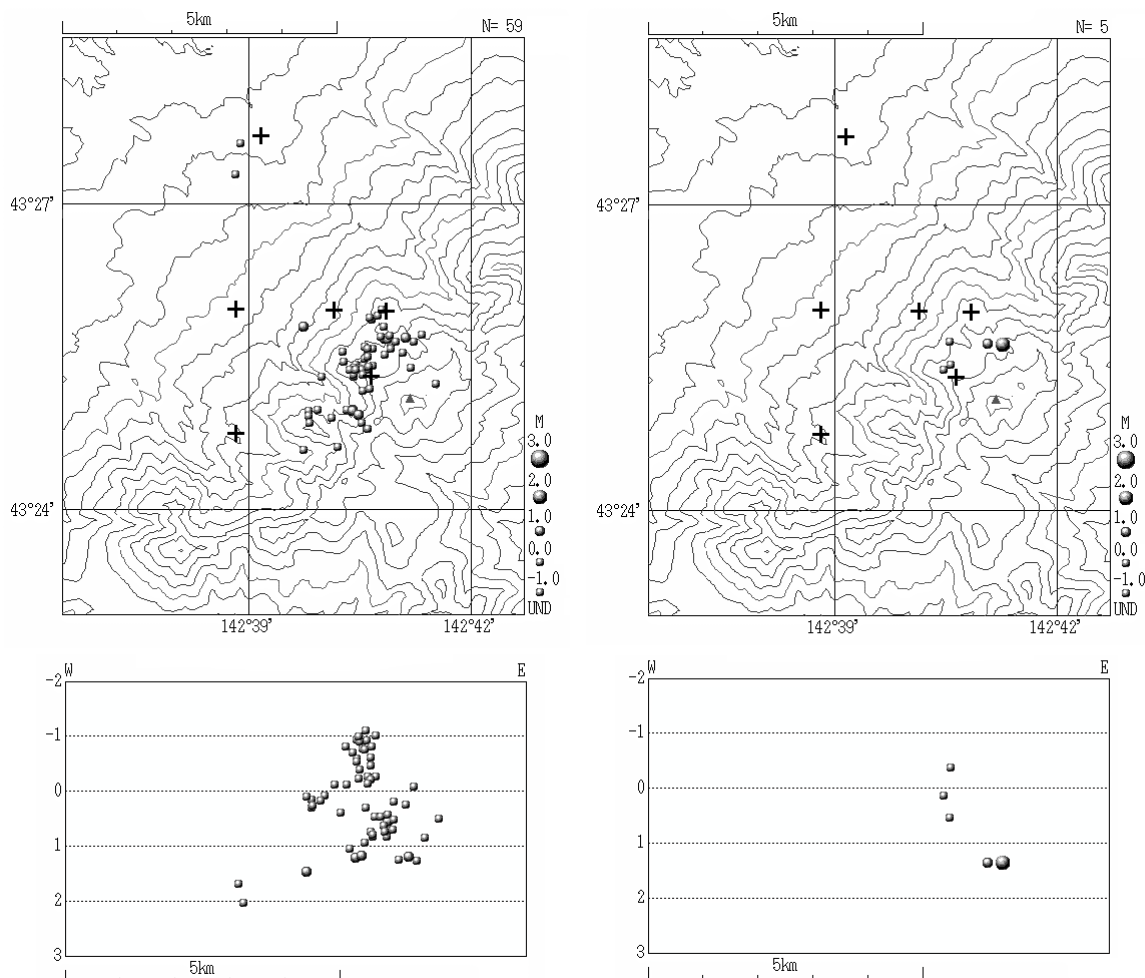
最近の火山活動経過図(1997年1月1日~2005年6月30日) 印はごく小規模な噴火

3 地震および微動の発生状況

62-2 火口付近の地震計（H点）で 28 日 13 時 17 分頃から約 1 分間、振幅の小さな火山性微動が観測されました。微動の発生源は 62-2 火口周辺の浅部と推定され、同火口周辺浅部における地下水や火山ガスが関係した小規模な現象と考えられます。微動の発生前後で火山性地震の増加は見られませんでした。火山性微動が観測されたのは 2004 年 11 月 17 日以来です。

地震・微動の月回数（H点：火口付近の観測点 A点：山麓の観測点）

2004～2005年	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
地震回数H点	13	19	16	11	20	30	60	20	86	14	14	26
地震回数A点	4	6	3	3	7	4	4	2	11	4	5	3
微動回数H点	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1



十勝岳の震源分布図（丸印：震源、+印：地震観測点）

右図は今期間（2005年6月1日～30日）に求まった震源を示しています。

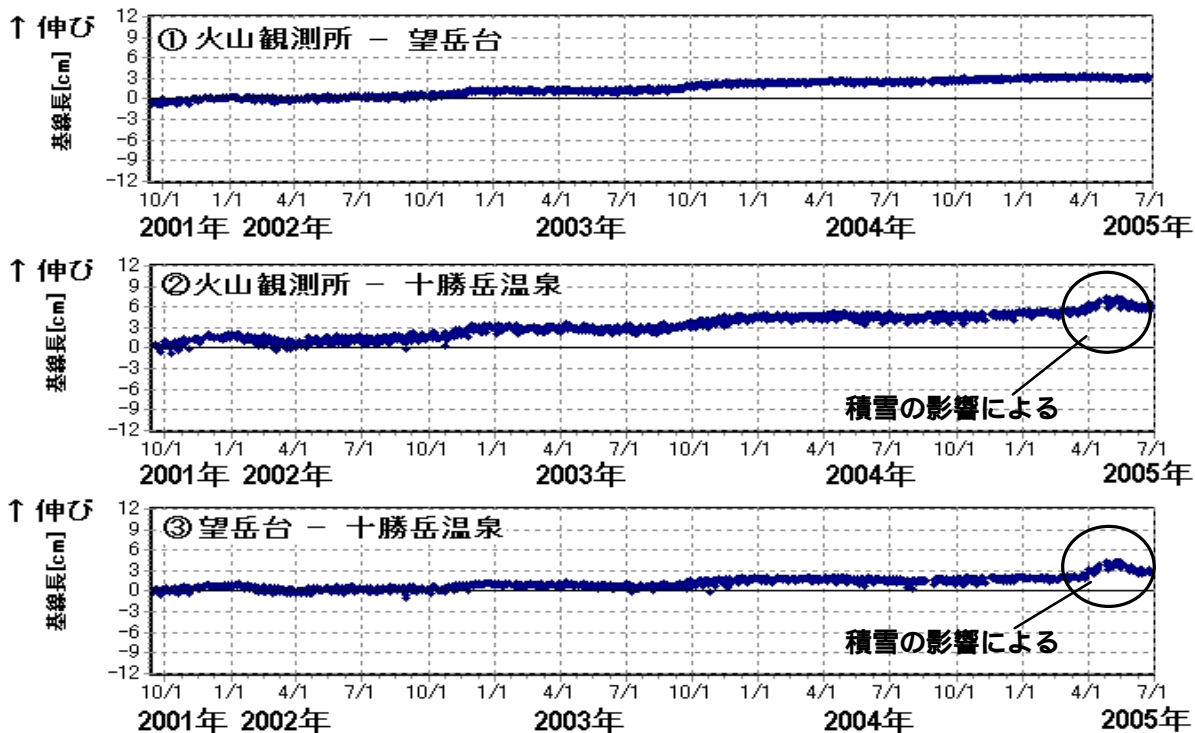
左図は前期間までの11ヶ月間（2004年7月1日～2005年5月31日）に求まった震源を示しています。

震源はグラウンド火口周辺と三段山～旧噴火口周辺の浅部（海面上1km～海面下1km程度）に集中しており、今期間の震源もこれらの領域内に分布しています。

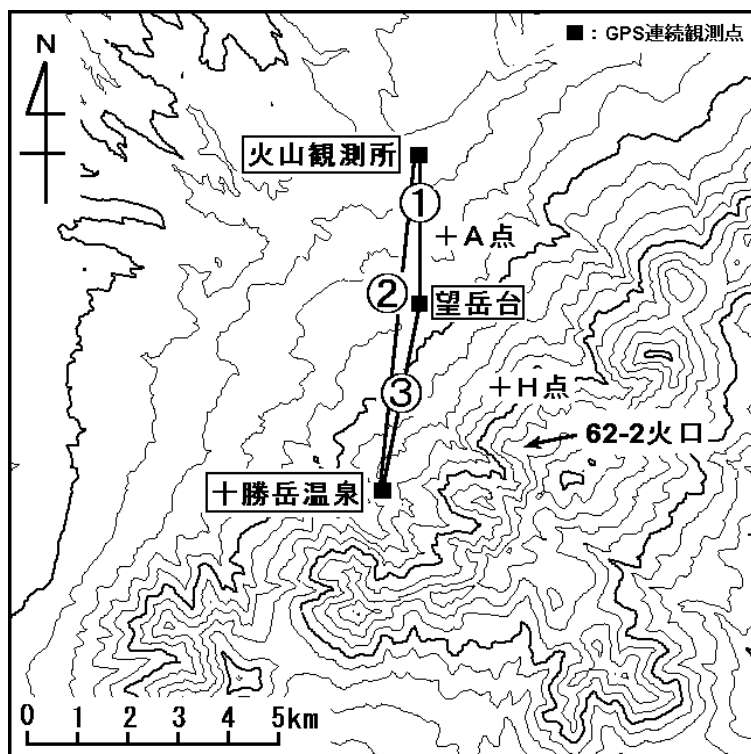
4 地殻変動の状況

西麓での GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は認められません。

本年3月末からの十勝岳温泉観測点を含む基線で認められる変動は、積雪による一方向への加重で生じた局所的なものと考えられます。



基線長変化(2001年9月13日~2005年6月30日)



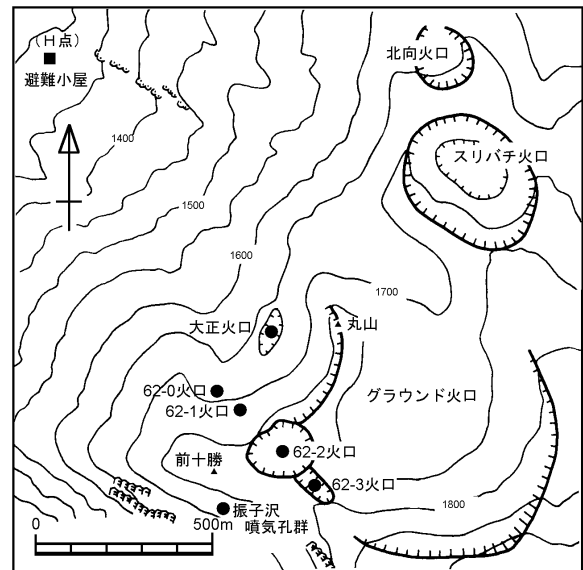
5 調査観測の結果

6 月 20～23 日に調査観測を実施しました。

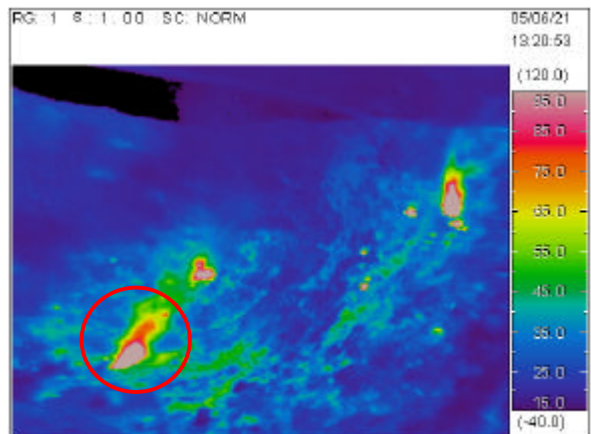
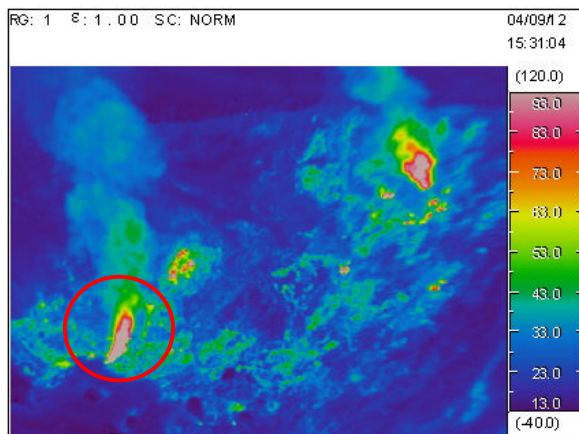
62-2 火口では引き続き活発な噴煙活動と高温の状態が続いていました。その他の火口も昨年 9 月の状況と比べて大きな変化はありませんでした。

【62-2 火口】

活発な噴煙活動が続いており、火口縁では強い刺激臭が認められました。西側火口底の噴気孔は昨年 9 月と同様に、透明な火山ガスを勢よく噴出する非常に活発な噴気活動が継続していました。赤外熱映像装置*により測定した噴気孔の温度は約 300 で、昨年 9 月（約 200 ）に比べ約 100 の上昇が見られました。遠距離（約 160m 離れた地点）からの測定のため、実際の温度はかなりの高温であると推定されます。



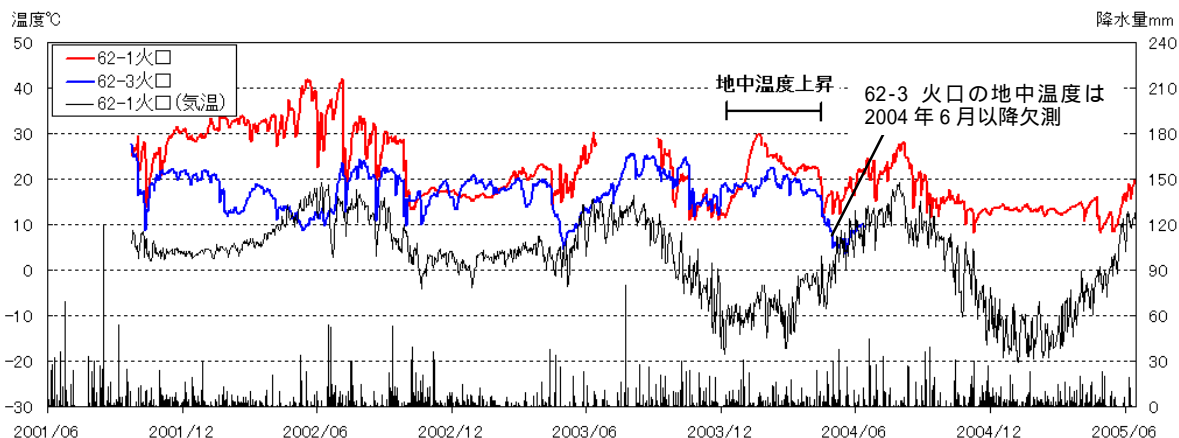
十勝岳火口周辺図



赤外熱映像装置による 62-2 火口の表面温度分布 西側火口底の活発な噴気孔
（左：2004 年 9 月 12 日 右：2005 年 6 月 21 日）

【62-2 火口周辺の地熱域】

62-0 火口、62-1 火口、62-3 火口、振子沢噴気孔群などでは弱い噴気が認められましたが、赤外熱映像装置*による観測では高温部分の拡大や新たな地熱域は認められませんでした。地中温度の連続観測では、62-1 火口で一昨年 12 月から昨年 4 月にかけて、同時期に繰り返された火山灰噴出に対応したと考えられる温度上昇が見られましたが、その後は元に戻っており、熱活動は落ち着いた状態となっています。



62-1 火口および 62-3 火口の地中温度（深さ 50cm）の推移（2001 年～2005 年）

【大正火口】

東側火口壁上部のやや活発な噴気孔の最高温度は 183 で、昨年 9 月（236）と大きな変化はなく、噴気の状態や変色域にも特に変化はありませんでした。赤外熱映像装置*による観測では高温部分の拡大は見られず、熱活動の高まりは認められませんでした。



大正火口東壁上部の噴気孔

【旧噴火口】

沸点程度の地熱活動と温泉の湧出が続いています。赤外熱映像装置*による観測では高温部分の拡大は見られず、熱活動の高まりは認められませんでした。

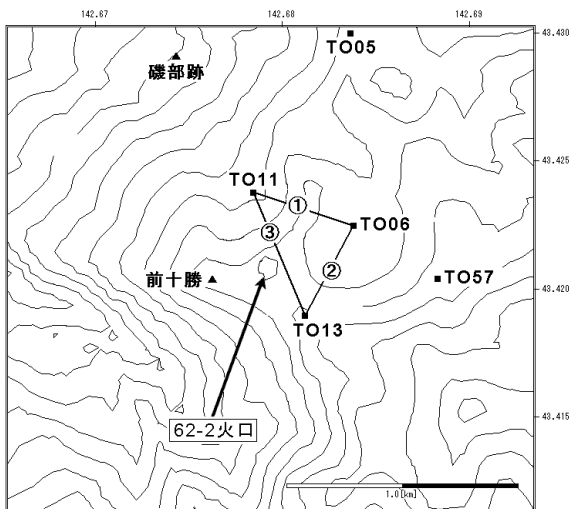


旧噴火口（東側から撮影）

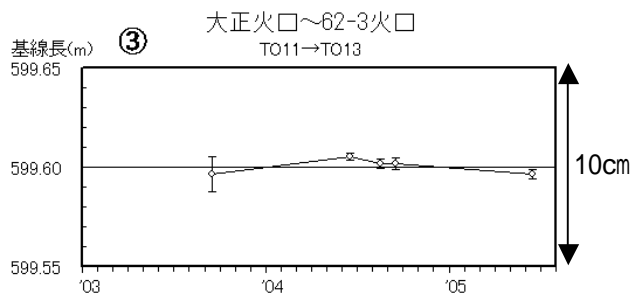
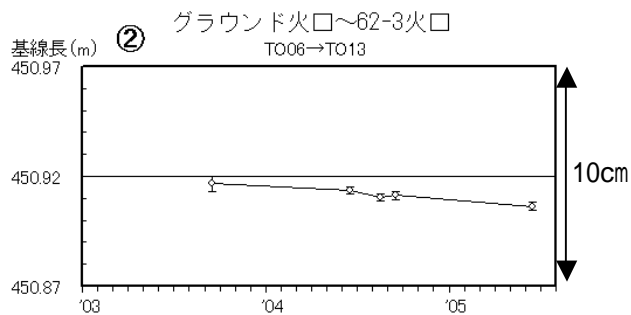
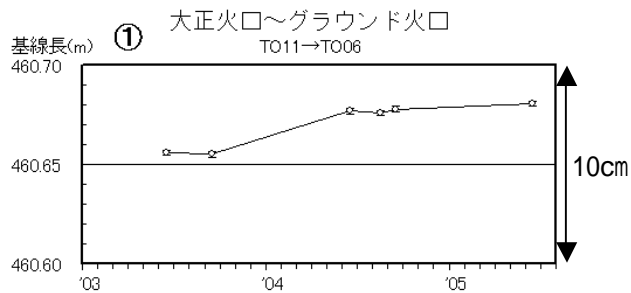
* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

【GPS 繰り返し観測】

GPS 繰り返し観測では、62-2 火口を囲む基線では、観測誤差を上回る有意な変動は観測されていません。



62-2 火口周辺の基線長変化



山頂GPS繰り返し観測位置